



耳 寄 り 情 報 百 科

令和 8 年
3 月 号



中南農林水産事務所 農業普及振興室
弘前市蔵主町 4 電 話：0172-33-4821
F A X：0172-34-4390

黒石分室
黒石市田中 82-9 電 話：0172-52-4335
F A X：0172-53-4114



HP https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/ch-nosui/w_top.html

令和 7 年度の振り返りと令和 8 年度に向けて

農業普及振興室が専門班体制から地域班体制となって 2 年目の令和 7 年度は、次項で紹介する 4 つの重点指導計画を中心に活動を展開し、管内全域に関係する水田営農やりんごの高密植栽培を推進するとともに、地域に密着して管内のモデルとなり得る取組を支援して参りました。市町村をはじめ関係団体及び生産者の皆様の御協力のおかげで、着実に足場を固めながら前進することができていると思っております。

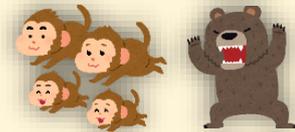
農作物の生産については、豪雪被害に始まり、4 月の降雨、7 月の渇水、夏場の高温と異常気象の影響を受けながらも、米や野菜は概ね平年作と良品質を確保し、りんごは枝折れや鳥獣被害の影響により収量は減少したものの品質のよいものが生産されました。これもひとえに生産者の御努力と関係機関・団体の支援のおかげです。

今冬は、残念ながら 2 年続きの大雪となり、りんごやハウス等に被害が見られています。復旧への思いに水を差され、やりきれなさが募っていることと思いますが、令和 8 年は丙午の年、そのパワーと縁起のよさを味方に付け、今一度、前進していただきたく願っております。苦難を乗り越える対策を皆の知識と工夫で築き上げていきましょう。当室としても「農林水産力」強化パッケージにより、引き続き地域に密着した活動と支援をして参ります。

農業普及振興室長 山田 実

鳥獣被害の対策について

クマやサルによるりんごやももの被害を防止するため、簡易電気柵の設置が進んでいます。獣が園地外周に張った電線に接触することで、ソーラーパネルで発電した約 9,000 V の高圧電気が獣から地面へと流れ、瞬間的に感電させて侵入を防止します。電気柵を設置すると、設置していない園地に回り込んで侵入するので、地域ぐるみでの設置が効果的です。冬期間は片付けますが、電線を地面に下ろすだけで良い恒久電気柵もあります。



簡易電気柵（サル・クマ用 7 段）

令和7年度の重点的な取組について

水田への高収益作物（にんにく）の作付推進

青森県は日本一のにんにくの産地で、津軽地方では主に水田転作作物として作付けされていますが、近年、高齢化や労働力不足等により、管内のにんにくの作付面積が減少傾向にあることから、にんにくの産地を維持・拡大していくため、現状や課題の把握に努め、作業負担の軽減を図る必要があります。また、ほ場整備地区においては、高収益が見込まれるにんにくを導入し、所得向上を図ることとしています。

そのため、にんにくの良品質安定生産に向けて、中南地域にんにく優良種苗生産指導プロジェクトチーム会議を開催し、令和7年産の生産状況や労働力に関するアンケート結果などの情報を共有したほか、藤崎町に生育観測ほを3か所設置し、そのデータを活用して、追肥・収穫・植付けの講習会を農協と連携して行いました。また、ほ場整備地区の弘前市三省地区では個別指導により、藤崎町福島地区のにんにく生産者には、講習会を通じて栽培指導を行いました。今後も現地の課題解決に向けて、関係機関と連携して指導・支援を行っていきます。



にんにく PT 会議



にんにく講習会

担当：野菜担当

中南型りんご高密度植わい化栽培の導入推進

りんごの高密度植わい化栽培は、早期多収や軽労化が期待されますが、導入が増加する一方で、本県での栽培技術が未確立であることや、専用のフェザー苗の供給不足などが課題となっています。

当室では、2年生フェザー苗木を使用する従来の栽培方法に加え、平川市密植栽培研究会の1年生ノンフェザー苗木を使用する栽培方法を「中南型」とし、モデル園地を活用して栽培管理等の調査を行いました。また、関係機関等で構成する本栽培推進研究会では、調査結果や先進地視察の報告等の情報共有も行いました。

今後は平川市密植栽培研究会員が行っている栽培管理技術を整理して取りまとめた「中南型高密度植栽培ガイドブック」を作成し、関係機関や生産者へ配付する予定です。

引き続き、関係機関と連携し、高密度植わい化栽培の導入推進に向けて取り組んでいきます。



栽培推進研究会の様子

担当：果樹担当



黒石市における有機農業の推進

黒石市では、令和3年度に「くろいし有機農業推進協議会」を設立し、令和4年度には「オーガニックビレッジ宣言」をするなど、有機農業を推進していますが、有機農産物は安定生産が難しく、売先が安定していないこと等から、技術や販売面で比較的取組みやすい水稲と大豆が大部分を占めています。

本年は、同協議会と連携し、主力の水稲と新品目のにんじんにおいて実証ほの設置・調査をし、有機農業取組者や取組志向の農家を対象に、現地検討会の実施、個別巡回に基づく栽培管理指導等を行いました。

水稲の「ムツニシキ」では、雑草対策の改善が必要であることが明らかとなり、にんじんでは、太陽熱養生処理により、雑草の発生が抑えられることが確認できました。

次年度も、関係機関と連携し、雑草対策の改善や有機農業取組者の拡大に向けて、指導・支援を行っていきます。



紙マルチ田植え



にんじん実証ほ現地検討会

担当：黒石分室

水田農業の活性化に向けた経営拡大の仕組みづくり

平川市は、2020年の農林業センサスにおいて、後継者を確保している農業経営体数が21.6%で、その経営耕地面積は30.2%に留まり、地域農業の衰退が懸念されています。また、尾上地区の水田は小区画ほ場で土側溝が多く、経営規模拡大の障壁となっています。

そこで、令和7年3月に市が策定した尾上地区の「地域計画」の実現に向けて、地区の農業者や関係機関を参集して連絡会議を計5回開催しました。会議では、現状を共有するとともに、ほ場整備に対し強い要望が確認されたことから、ほ場整備事業関連制度の紹介、事業実施地区の現地視察、農地集約化に向けた先進事例等を紹介し、ソフト・ハード両面の取組方向について理解を深めました。

次年度も、関係機関とともに、地域の担い手が経営規模を拡大できる環境整備に向け支援していきます。



現地視察



連絡会議

担当：地域第2班





令和7年度も、多くの方がこれまでの功績や優れた取組により、表彰を受けられましたので、ご紹介します。

第27回（令和7年度）全国果樹技術・経営コンクールで農林水産大臣賞を受賞！

株式会社釈迦のりんご園の代表取締役の工藤秀明氏は、土づくりを基盤に、樹の生命力を引き出す独自の「釈迦農法」を確立されました。化学肥料不使用を貫き全国トップクラスの品質を実現し、銀座千疋屋との直接取引等で販売額を法人化前の約5倍に拡大させています。また、完全フレックスタイム制の導入による柔軟な職場環境の整備など、産地の将来を支える一連の取組が、地域を牽引する先駆的な技術者、経営者として高く評価され、この度の農林水産大臣賞受賞となりました。



表彰式

担当：果樹担当

あおり旨い米グランプリを受賞！

厳正な審査により、「はれわたり」の部で舘山拓也さん（弘前市）がグランプリを、「青天の霹靂」の部で一戸育子さん（弘前市）が準グランプリを受賞しました。12月11日に行われた表彰式では、舘山さん本人と、一戸さんは息子の研人さんが出席し、賞状を授与されました。グランプリを受賞した舘山さんは弘前地区4HC活動の中で、令和6年からグランプリ獲得を目指すプロジェクトを立ち上げ、ほ場や田植え時期・栽培管理等の見直し、適期刈取りを行ってきました。舘山さんは、今後も安定した良食味米生産を行い、来年度もグランプリを目指したいと意気込んでいました。



表彰式

※前列左端に舘山氏
後列中央に一戸氏

担当：水稻担当

青森県花の共進会で最優秀賞と金賞を受賞！

令和7年7月25日、県観光物産館アスパムにおいて「第51回青森県花の共進会」が開催されました。審査の結果、総出品点数120点の中から、栄えある最優秀賞に田舎館村の山谷秀一氏のトルコギキョウ「チアライトピンク」、金賞に藤崎町(株)咲花園のアルストロメリア「サニーレディ」が選ばれました。

当地域からは受賞した品目の他に、りんどう、ひまわりが出品され、翌日開催のフラワーフェスティバルで多くの来場者に見ていただきました。



金賞



最優秀賞

担当：花き担当